

文学部 「東アジア社会文化史研究ゼミ」 担当：佐々木聡

2025年度後期、文学部では、フロントランナープログラムとして「楽しむ日本古典文学」「英語リスニング徹底対策ゼミ」「東アジア社会文化史研究ゼミ」「西洋史研究発展ゼミ」「心理学研究入門ゼミ」の5つのプログラムを提供しました。本報告では、このうち「東アジア社会文化史研究ゼミ」(担当教員：佐々木)について紹介します。

このゼミでは、多様な社会文化史料を用いて研究をおこなうための実践訓練として、中国語論文や漢文の原史料の講読をおこなっています。毎年、参加希望者の学生たちと話し合っ、講読するテキストを決めますが、今年度は前年度に引き続き『三国志』を読むことになりました。



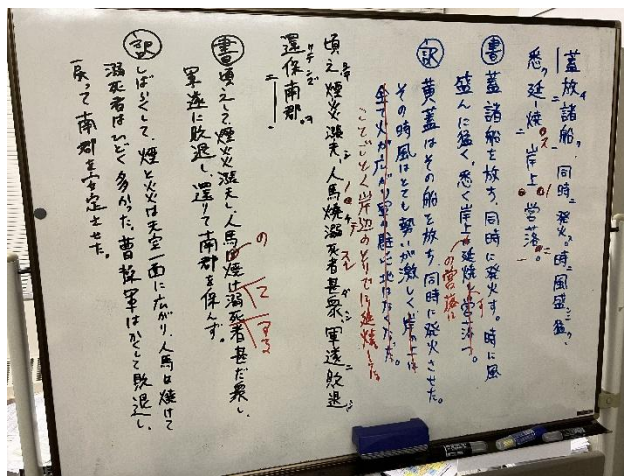
『三国志集解』(上海古籍出版社、2009年)

中国史ファンに根強い人気のある『三国志』ですが、小説や漫画の元になっている長編小説『三国志演義』を読んだことがあるという方は少なくないですが、本来の歴史書『三国志』を原文で読む機会はなかなかありません。

参加学生たちは、漢文訓読の基礎を学び、一字一句丁寧に辞書を引ながら、原文をあじわっていきます。テキストに使う『三国志集解』(上図)は、現在東洋史の世界で『三国志』を読む際に定本として使われるテキストの1つです。清末の考証学者盧弼により集められた注釈が理解を助け、また本文に並ぶ裴松之の注釈は、『三国志』とはまた異なる当時のエピソードを多く伝えております。毎週のゼミでは、予習してきた原文の書き下しや現代語訳

をホワイトボードに書き、添削や解説を受けますが、これが研究を自力でおこなうための力となっていきます。

今学期は、『三国志』呉書・周瑜伝をとりあげ、有名な赤壁の戦いのシーンまで読み進めました。当時の地図を参考に、地形や位置関係を踏まえて軍事行動を復元したり、呉の武将の中でもひとときわ異彩を放つ周瑜の人となりや背景を明らかにすることができました。



赤壁の戦いに言及した『三国志』の一節